



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

地域人材ネット

中山間地域の人材養成塾の企画・運営/
商品特産品づくりと販路開発/地紅茶による地域づくり

藤原 一輝 (ふじわら かずき)

合同会社 コミュニティデザイン工房 代表



○ 登録者情報

所在地

鳥取県鳥取市

略歴

1954年岡山県高梁市生まれ
1978年京都市立芸術大学美術学部工業デザイン卒業
1978年三洋電機株式会社入社、84年から鳥取三洋電機勤務(オーディオ・情報機器・電話・FAX等のデザイン担当)
1993年和歌山県本宮町「元気あるまちづくりをみんなで進める協議会」まちづくり顧問(1998年まで)
1995年～2001年倉吉市白壁土蔵を活かしたまちづくりに取組む「赤瓦」テナント会会長、紅茶専門店も経営
2002年とっとり国民文化祭「ふるさと～食の祭典」実行委員長
2003年鳥取市歴史的建造物の保存活用に関する「鳥取市歴史的建造物活用方策」検討委員
2003年鳥取県地域づくりセンター運営委員、2012年副会長
2009年鳥取県経営革新アドバイザー登録
2010年鳥取県広報連絡協議会企画調整マネージャー
2011年中山間地域人材養成事業とっとりふるさと元気塾(鳥取市主催)事務局長(現在に至る)
2012年合同会社コミュニティデザイン工房代表就任
<受賞歴>
1978年大阪府主催大阪産業デザインコンテスト入選
1995年富山県主催富山プロダクトデザインコンペティションデザイン優秀賞受賞
1998年経済産業省主催グッドデザイン賞受賞

著書・論文等

『カルチャー食』山陰初の食べ歩きガイドブック(1989年～2002年)
『とっとりは美味しい』鳥取県の美味しい食材を広く紹介した食の本(2002年)
『地域づくり読本』共著 文理閣(2002年)

○ 中山間地域の人材養成塾の企画・運営/ 商品特産品づくりと販路開発/地紅茶による地域づくり

取組の内容

1. 人材養成塾の企画・運営

2011年から18年度まで、中山間地域を担う人材養成を図る「とっとりふるさと元気塾」の事業を運営推進しました。テーマは、商品開発や特産品開発・地域間交流・地域集落の活性化です。地域資源の発掘から商品・特産品の実現では、デザインやパッケージの制作など実践的な内容を重視しました。東京など大都市圏でのマルシェも実施しました。

2. 商品特産品づくりと販路開発

商品や特産品開発について、マーケットイン(売れる物づくり)の考え方が大切です。消費者が求めているニーズ・商品は何かということが分からなければ売れる物は作れません。2012年から、鳥取名産の「らっきょう」にこだわった「らっきょうの花びら」を作りました。2013年には、一年中売れる餅のスイーツを開発しました。2012年に、因州和紙を使ったクリスマスツリーを開発し、NHKの全国放送で紹介されました。

3. 地紅茶による地域づくり

1993年から現在まで、紅茶の会を設立し、紅茶をテーマに地域づくりをしています。1998年に、鳥取県大山町で地紅茶(国産紅茶)を開発しました。国産紅茶を地紅茶と名付けたのは私ですが、元々日本では、明治10年頃から政府主導で国産紅茶を作り海外に販売したという歴史があります。1971年の紅茶の自由化により紅茶生産は無くなりますが、1990年ころから町おこしとして国産紅茶の特産品化が起こります。2002年から地紅茶サミットを開催しています。現在、地紅茶を作る農家が全国に742か所となっています。昨年愛媛県松山市で第17回地紅茶サミットが開かれ、2019年は愛知県豊橋市でサミットが開かれる予定です。2013年6月、NHKの全国放送「うまいっ！」で地紅茶が取り上げられ、地紅茶専門家として出演しました。この放送以降、さらに紅茶生産が活気づいています。



実績

- ①2011年～18年度、鳥取市中山間地域人材養成「とっとりふるさと元気塾」で約2800人の塾生を養成しました。
- ②1989年～2002年にかけて企画・出版・販売した山陰初の食べ歩きガイドブック『カルチャー食』が4万部以上の大ヒットになりました。
- ③1998年に企画・開発した鳥取県産の地紅茶(国産紅茶)「とっとり紅茶」が現在も生産・販売され、紅茶の会の取扱い額が3,000万円以上になっています。
- ④地紅茶による地域づくりを実践している農家や紅茶ファン、流通関係者の情報交換の場である。全国地紅茶サミットが今年で18年目を迎えます。2016年の奈良サミットから参加者が毎回5000名を超える規模になっています。
- ⑤地紅茶に関して大学との連携が活性化しています。愛媛大学のCOC公開講座を2018年10月に西予市で開催、「日本人と紅茶」「国産紅茶と地域づくり」について講演した。また、2018年9月に東京農工大に於いて地紅茶学会を設立し、地紅茶のさらなる情報発信と生産者の技術力強化を目指しています。



工夫した点や苦勞した点

- ①特産品開発や地域の活性化も根っこは同じで、要は人とのつながりをどう形成していくかに尽きます。つながりを作ることは大変難しいですが、その基本は信頼感のある対話だと思います。講師自らが地域に出向き相手の顔をみながら話すことで信頼が生まれ、心が通じ合えると思います。
- ②現場・現物・現実の3現主義で物事を考え行動することが大切です。どんな素晴らしい夢も、現実を無視しては成り立ちません。現実を直視することは難しいことですが、一緒になって悩み課題を解決していくことが大切だと思います。

ひとことPR

小さな成功が大切です。小さな成功があつてこそ次につながり、小さな成功の連続がやる気を生み出し、目的達成のきっかけとなります。小さな成功を生むためには、身近なテーマ、例えば趣味など心から楽しいと思えることにこだわることが秘訣だと思います。夢は必ずかなえられる。小さな夢を大きな夢に育てていきましょう。



○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています（複数の分野に該当するものもあります）。

	1	地域経営改革	7	まちなか再生
○	2	地場産品発掘・ブランド化	8	若者自立支援
	3	少子化対策	9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進	10	環境保全
	5	定住促進	11	その他
○	6	観光振興・交流		

連絡先

メールアドレス	n2v2kz[アットマーク]bma.biglobe.ne.jp	その他	
---------	---------------------------------	-----	--

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。